

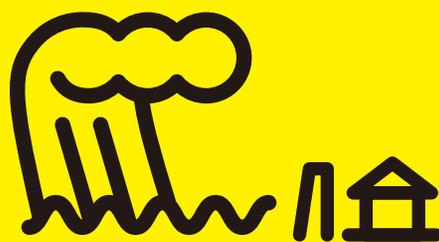
保存版



Kumejima Town

久米島町

防災ハザードマップ



令和5年3月

防災ハザードマップの使い方

この防災ハザードマップは、災害の発生により被害が想定される内容、場所を事前に知っていただき、災害に備えていただくことを目的としています。

防災ハザードマップの使い方

まず、自分の位置を確認しましょう。

災害が想定される位置を確認しましょう。自分がいる場所は、どのような災害が予想されるのかを、地図をみて確認しましょう。



災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう。

避難経路を地図で確認し、土砂災害や津波などの災害が想定される場所を避けて避難できるようにしましょう。



次に、近くの避難所を確認しましょう。

一番近い災害に応じた避難所を地図で確認しましょう。



実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



目次

避難時の注意点・警戒レベルについて	1
土砂災害	2
津波・高潮	3
地震・火災	4
風水害・台風	5
久米島町全体図	6~7
避難所・場所一覧	8~9
防災ハザードマップ	10~37
防災対策&チェック	38
非常時持ち出し品の準備&チェック	39
防災に関する知識	40
感染症対策について	41

発行：久米島町 作成：令和5年3月

「この地図は、久米島町長の承認を得て、同町発行の1/15,000地形図を使用し、調製したものである。(承認番号)久建第1847号」

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R2JHs 293-1345号」

「JIS Z 8210 広域避難場所 避難所(建物)津波避難場所」

(禁無断複製)©2023 ZENRIN CO., LTD.

避難時の注意点・警戒レベルについて

水害・土砂災害の防災情報の伝え方がわかります

防災情報はいろいろあるけど
いつ避難すればいいの?

逃げ遅れゼロへ

警戒レベル4で全員避難!!

[警戒レベル]で避難のタイミングをお伝えします。

2019年の出水期(6月ごろ)より、[警戒レベル]を用いた避難情報が導入されています。
市町村から[警戒レベル③、④]が発令された地域にお住まいの方は、速やかに避難してください。

警戒レベル① 心構えを高める (気象庁が発表)	警戒レベル② 避難行動の確認 (気象庁が発表)	警戒レベル③ 高齢者等は 避難!	警戒レベル④ 避難指示 (緊急) 全員避難!
避難に時間を要する人は避難 (市町村が発令)	安全な場所へ避難 (市町村が発令)		

[警戒レベル⑤] (市町村が発令) は既に災害が発生している状況です。※令和3年5月時点

洪水・土砂災害での避難の仕方

歩ける深さは50cm!!

歩ける水深は平均約50cm。
水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で
救助を待ちましょう!



履き物に注意!

裸足、長靴は禁物です。
ひもでしめられる運動靴が良いでしょう。



ロープでつなげる!

はぐれないようお互いの身体をロープで結
んで避難しましょう!
また、水面下には危険が潜んでいます。
長い棒を杖がわりに安全確認をしてください。



もしも、土石流に遭遇したら

◆◆逃げ方に注意しましょう!◆◆

土石流は流れるスピードが速いため、流れを背
にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。
土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、
逃げ方に注意しましょう。



命を守るために情報の収集に努めてください

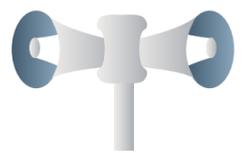
特別警報は、自治体や報道機関を
通じて伝えられます。テレビやイン
ターネット、自治体から発信される
情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・
気象庁ホームページ



防災無線・広報車

「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。
※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

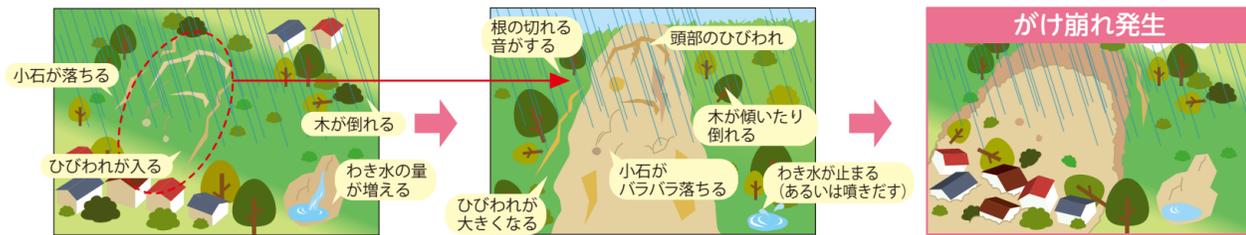
土砂災害

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが原因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難所・避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ (急傾斜地)

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速 20~40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地滑り

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※ 上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふだんと違い、少しでも身の危険を感じたら避難するようにしましょう。

津波・高潮

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分後を目処に津波警報 (大津波、津波) または津波注意報を発表します。

津波警報・注意報の種類

※ 大津波警報は特別警報に位置付けられています。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定されるべき行動と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10m < 予想高さ)	巨大	陸域に津波が及び浸水するおそれがあるため、沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
		10m (5m < 予想高さ ≤ 10m)		
		5m (3m < 予想高さ ≤ 5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m 以下の場合。	3m (1m < 予想高さ ≤ 3m)	高い	
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m 以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m ≤ 予想高さ ≤ 1m)	(表記しない)	陸域では避難の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。

高潮が発生する仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により、海面が異常に高くなる現象です。高潮が発生するとその高い潮位と波浪・強風により、海水が堤防を越えるようになり、背後地が浸水する可能性が高くなります。また、高潮が発生している海域に流れ込む河川があれば、高い潮位や波浪により河川の流が阻害されます。そのため、川沿いでは氾濫が発生し、海岸から離れた内陸部にまで被害を及ぼすこともあります。



高潮をもたらす台風の大きさと強さ

台風の「大きさ」は、強風域(風速15m/s以上の強い風が吹いているか、地形の影響などがない場合に吹く可能性のある範囲)の半径で表し、台風の「強さ」は、最大風速で区分しています。台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で非常に強い台風」のように呼びます。

大きさの階級分け		強さの階級分け	
階級	風速 15 m/s 以上の半径	階級	最大風速
大型 (大きい)	500km 以上 800km 未満	強い	33m/s 以上 44m/s 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/s 以上 54m/s 未満
		猛烈な	54m/s 以上

高い場所へ速やかに避難する

より高い場所へ、より海から遠い場所へ速やかに避難しましょう。

河川や海岸には近づかない

地震の発生や、警報・注意報が発表された場合、海岸や河川は危険ですので、釣りや海水浴を行っている方は、速やかに海岸から離れ、高い場所へ避難しましょう。

なるべく徒歩で避難する

車では渋滞や危険を招く可能性があるため、なるべく徒歩で避難しましょう。

避難指示に従う

避難指示が発令されたらただちに指示に従い、安全で高い場所に速やかに避難しましょう。

正しい情報を入手する

防災行政無線やテレビ、ラジオなどから正しい情報を入手しましょう。



まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- ◆まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- ◆すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- ◆大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



3分

揺れがおさまったら

- ◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- ◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- ◆避難するとき、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等へ注意
- ◆津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



5分

ラジオなどで正しい情報を得る

- ◆大声で知らせる ◆救出・救護を ◆防災機関、自主防災組織の情報を確認
- ◆デマにまどわされないように ◆避難時に車は極力使用しない
- ◆電話は緊急連絡を優先する



10分

数時間

3日

協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- ◆災害・被害情報の収集 ◆無理はやめよう
- ◆助け合いの心が大切 ◆壊れた家に入らない

ホテルの中

- ◆揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- ◆裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- ◆カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
- ◆柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



劇場・ホール

- ◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。

路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆近くに空き地などがいないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- ◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



バスなどの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



消火栓の使い方

粉末・強化液消化剤の場合



安全ピンに指を
かけ上に引き抜く。

ホースをはずして
火元に向ける。

レバーを強く握って噴射する。
握れないときは消火器を置いて
バーを手で上から押す。

消火栓のかまえ方

- ◆風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- ◆やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- ◆燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

大雨注意報

大雨による土砂災害や
浸水害が発生するおそれ
があると予想される場合

大雨警報

大雨による重大な土砂災害や
浸水害が発生するおそれ
があると予想される場合

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨
量となる大雨が予想される場合、若しくは、
数十年に一度の強度の台風や同程度の
温帯低気圧により大雨になると
予想される場合に発表

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm以上~20mm未満	20mm以上~30mm未満	30mm以上~50mm未満	50mm以上~80mm未満	80mm以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上~15m/秒未満	15m/秒以上~20m/秒未満	20m/秒以上~25m/秒未満	25m/秒以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

(平均風速:m/秒)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/秒 以上~44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒 以上~54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は比較的困難で、河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、
気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆ 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- ◆ 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆ 非常時持出品を準備しておく。
- ◆ 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆ 飲料水や食料を数日分確保しておく。

- ◆ 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- ◆ 危険な地域ではいつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意しておきましょう!

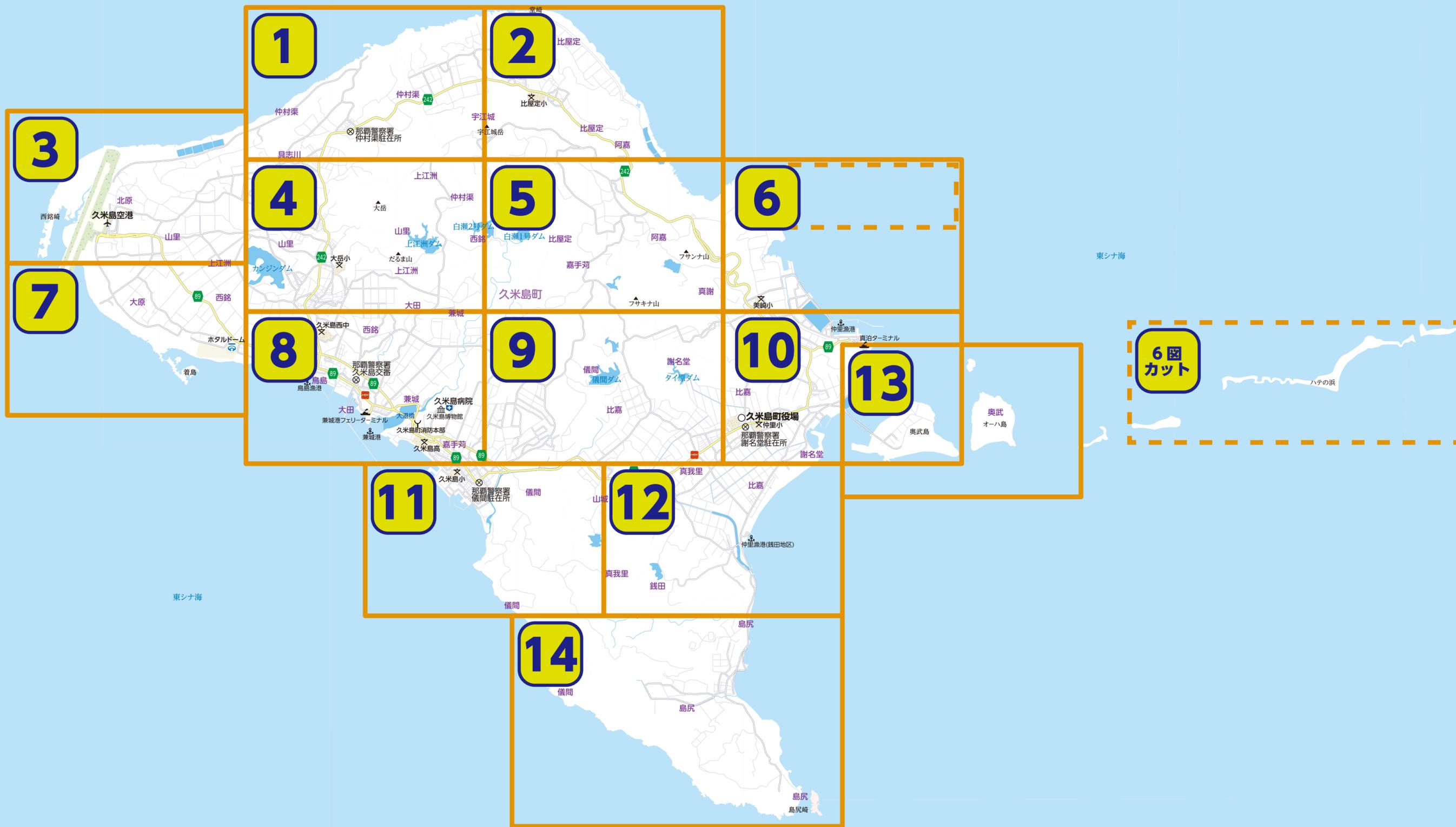


久米島町全体図



縮尺1:43,000

0 1500 3000m



避難所・場所一覧

No.	名称	形式	所在地	海拔(m)	地図 ページ番号
①	具志川農村環境改善センター	指定避難所兼津波避難場所	仲泊730	30	24p
②	宇江城公民館	指定緊急避難場所	宇江城798	106	12p
③	比屋定公民館	指定緊急避難場所	比屋定99-1	101	12p
④	上阿嘉公民館	指定緊急避難場所	比屋定2245-55	180	19p
⑤	下阿嘉公民館	指定緊急避難場所	阿嘉156-12	138	19p
⑥	山城公民館	指定緊急避難場所	山城48	31	32p
⑦	具志川公民館	指定緊急避難場所	具志川647	86	10p
⑧	仲地公民館	指定緊急避難場所	仲地15	90	16p
⑨	山里公民館	指定緊急避難場所	山里244	85	16p
⑩	上江洲公民館	指定緊急避難場所	上江洲229	79	16p
⑪	久間地公民館	指定緊急避難場所	上江洲457-40	43	16p
⑫	北原公民館	指定緊急避難場所兼津波避難場所	北原416	23	15p
⑬	久米島西中学校体育館	指定避難所兼津波避難場所	西銘1324	37	24p
⑭	久米島西中学校グラウンド	指定緊急避難場所兼津波避難場所	西銘1324	37	24p
⑮	球美中学校体育館	指定避難所	比嘉2856	5	28p
⑯	大岳小学校体育館	指定避難所	山里177	93	16p
⑰	大岳小学校グラウンド	指定緊急避難場所	山里177	93	16p
⑱	清水小学校体育館	指定避難所	鳥島198	8	24p
⑲	比屋定小学校体育館	指定避難所	宇江城2220	110	12p
⑳	比屋定小学校グラウンド	指定緊急避難場所	宇江城2220	110	12p
㉑	美崎小学校体育館	指定避難所	真謝103	4	20p
㉒	久米島町役場	指定避難所	比嘉2870	5	28p
㉓	久米島ホテルドーム	指定避難所	鳥島115	8	23p
㉔	大田辻	津波避難場所	字西銘145	21	24p
㉕	そらなみ保育園付近	津波避難場所	字仲泊862-33	37	24p

避難所・場所一覧

No.	名称	形式	所在地	海拔(m)	地図 ページ番号
⑳	中華海鮮 海皇付近	津波避難場所	字仲泊1123-5	23	24p
㉑	兼城バイパス沿い(喜久里宅付近)	津波避難場所	字兼城1010	20	25p
㉒	大田タンク付近	津波避難場所	字大田199	27	25p
㉓	久米島博物館付近	津波避難場所	字嘉手苅542	28	25p
㉔	儀間日の出御願一本松付近	津波避難場所	字儀間1878-12	70	26p
㉕	比嘉神屋付近	津波避難場所	字比嘉1592	32	27p
㉖	真我里カニク原付近	津波避難場所	字真我里928	48	32p
㉗	西銭田原付近	津波避難場所	字銭田687-2	24	32p
㉘	銭田森林公園	津波避難場所	字銭田1141-3	36	33p
㉙	島尻タカマス原付近	津波避難場所	字島尻859	38	37p
㉚	謝名堂カラヤ原付近	津波避難場所	字謝名堂1639-3	11	28p
㉛	宇根赤平頂上付近	津波避難場所	字宇根1987-2	18	28p
㉜	宇根涙石付近	津波避難場所	字宇根891	44	28p
㉝	宇根マチョー原付近	津波避難場所	字宇根2000	15	28p
㉞	登武那覇公園	津波避難場所	字真謝3371-1	105	28p
㉟	西アケタ原付近	津波避難場所	字真謝1994-1	22	20p
㊱	大原三叉路付近	津波避難場所	字大原386-2	26	15p
㊲	車検場付近	津波避難場所	字大原492-1	29	23p
㊳	ほんのもり	指定避難所兼津波避難場所	字嘉手苅530	33	25p

●**指定避難所** : 災害の危険があり避難した住民等が、災害の危険がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅
( このマークで示した場所) に戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを想定した施設。

●**指定緊急避難場所** : 災害時の危険から命を守るために緊急的に避難をする場所。災害種別ごとに指定。
( このマークで示した場所)

●**津波避難場所** : 津波に対して安全な避難場所・高台を示す。
( このマークで示した場所)

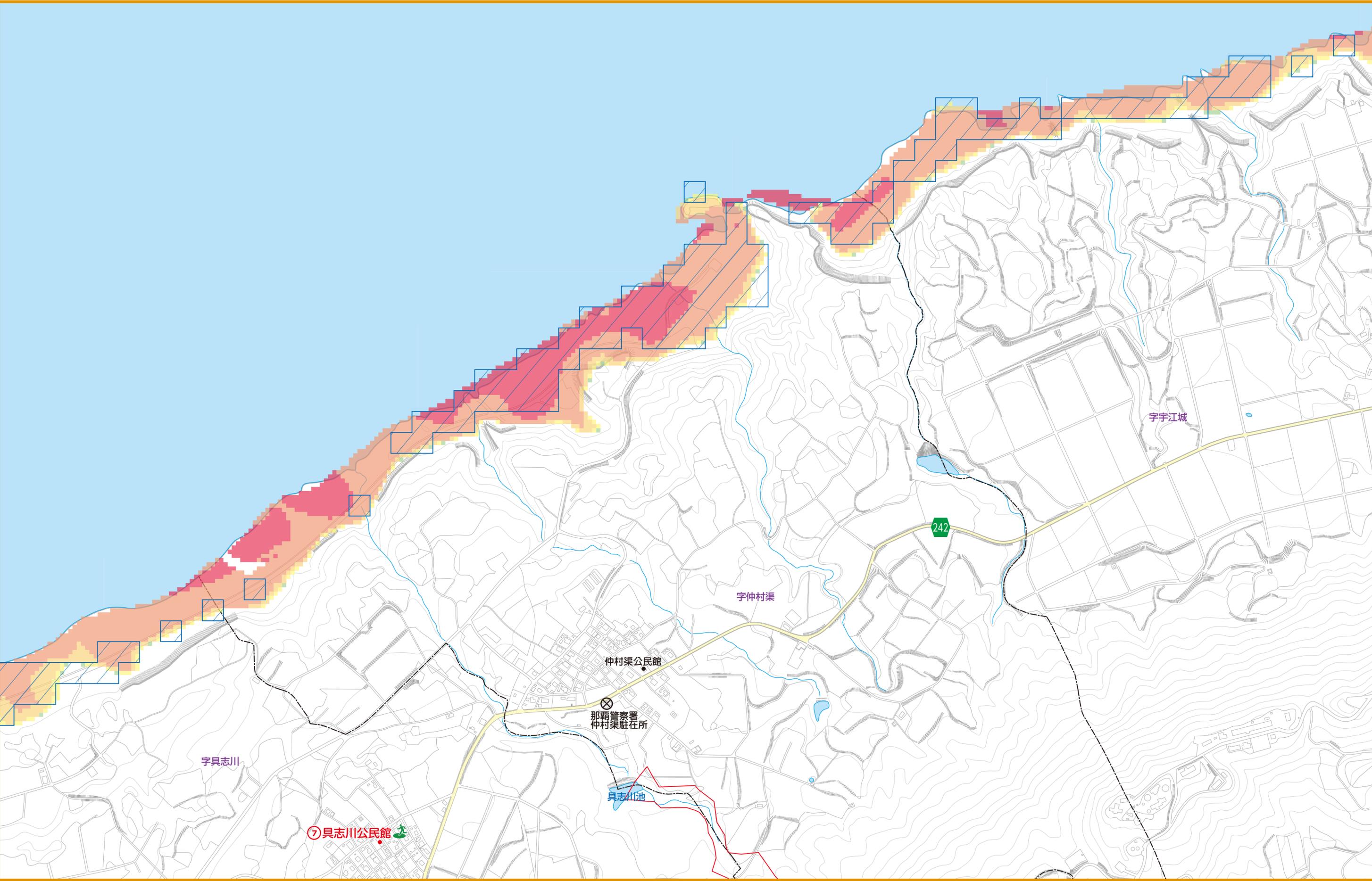
●**台風時の避難所開設については、その都度、防災無線、町HP、緊急速報メールなどでお知らせします。**

凡例		指定緊急避難場所		津波避難場所		町役場
		指定避難所		県道・主要地方道		交番・駐在所
						消防本部

高潮浸水想定区域		急傾斜地	土石流	砂防三法指定区域	浸水想定区分
土砂災害の危険がある場所		特別警戒区域	特別警戒区域	急傾斜地崩壊危険区域	10m以上～20m未満
		警戒区域	警戒区域	砂防指定区域	5m以上～10m未満
					2m以上～5m未満
					1m以上～2m未満
					0.3m以上～1m未満
					0.3m未満

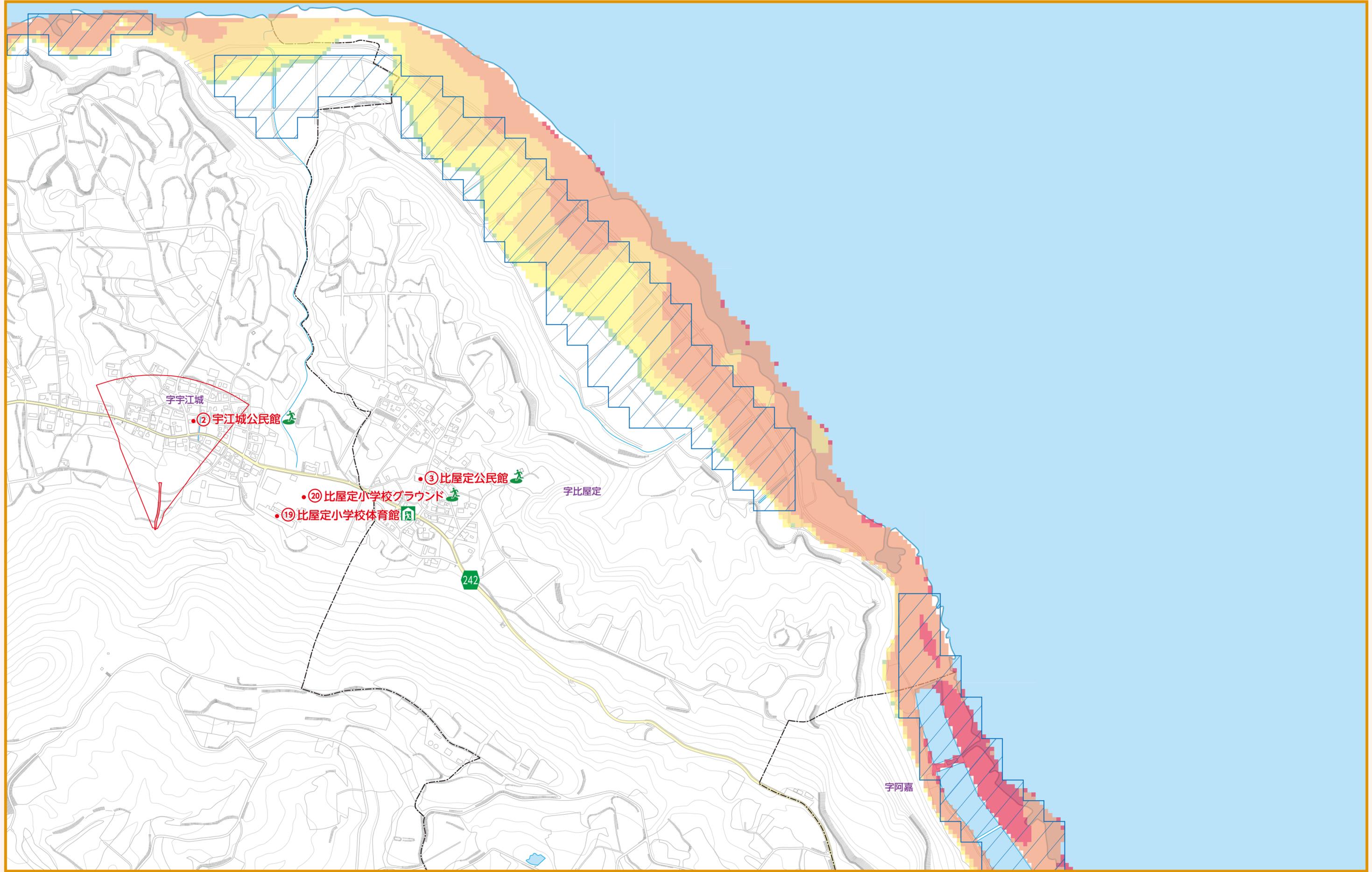
縮尺 1:6,500

0 125 250m



凡例		指定緊急避難場所		津波避難場所		町役場
		指定避難所		県道・主要地方道		交番・駐在所
						消防本部

高潮浸水想定区域		急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域	砂防三法指定区域 急傾斜地崩壊危険区域	浸水想定区分 10m以上～20m未満
		警戒区域	警戒区域	砂防指定区域	5m以上～10m未満
					2m以上～5m未満
					1m以上～2m未満
					0.3m以上～1m未満
					0.3m未満

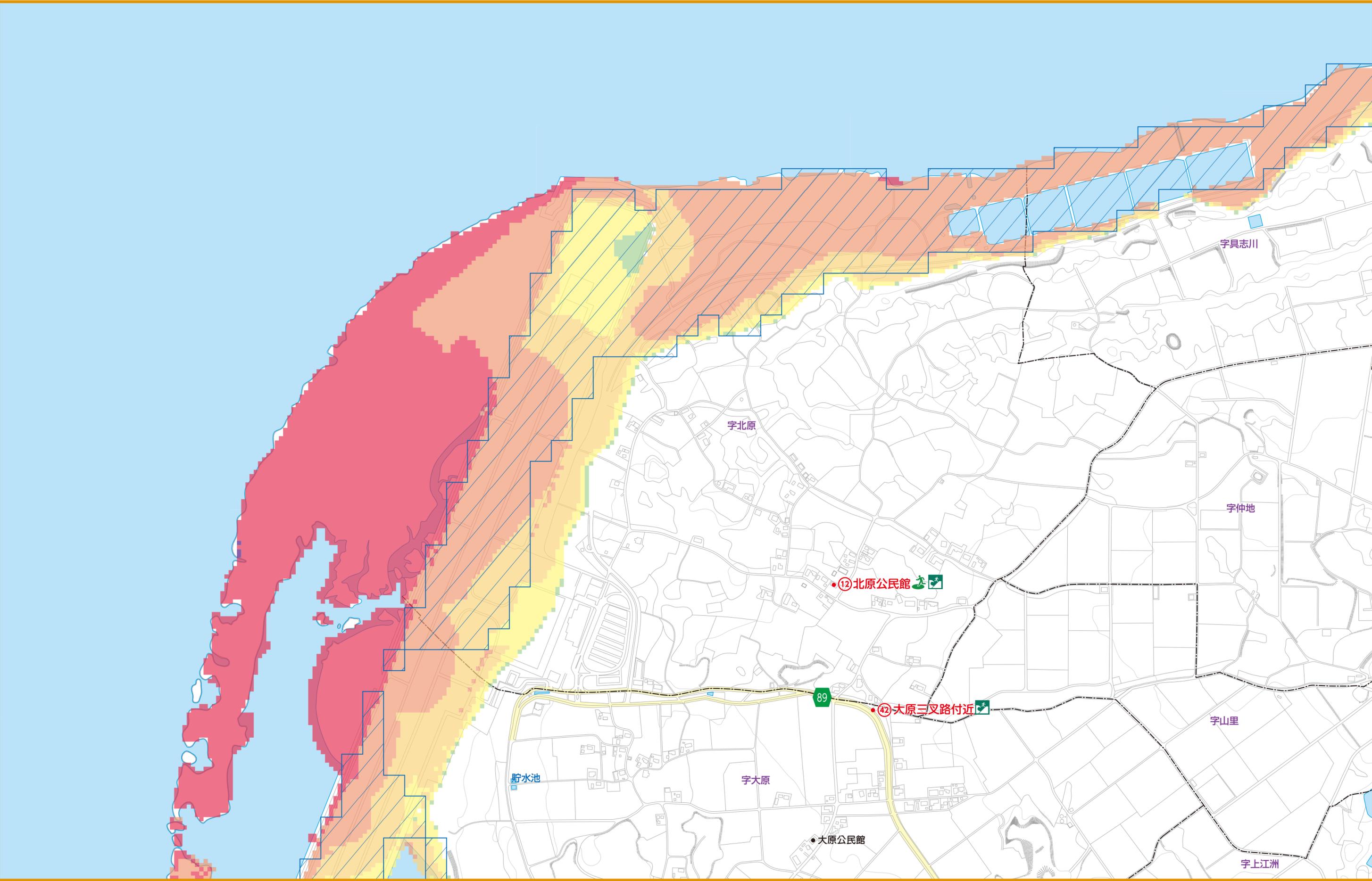


凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

高潮浸水想定区域 	急傾斜地 	土石流 	砂防三法指定区域 	浸水想定区分 10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満
--------------	--------------	-------------	------------------	--

縮尺1:6,500

0 125 250m

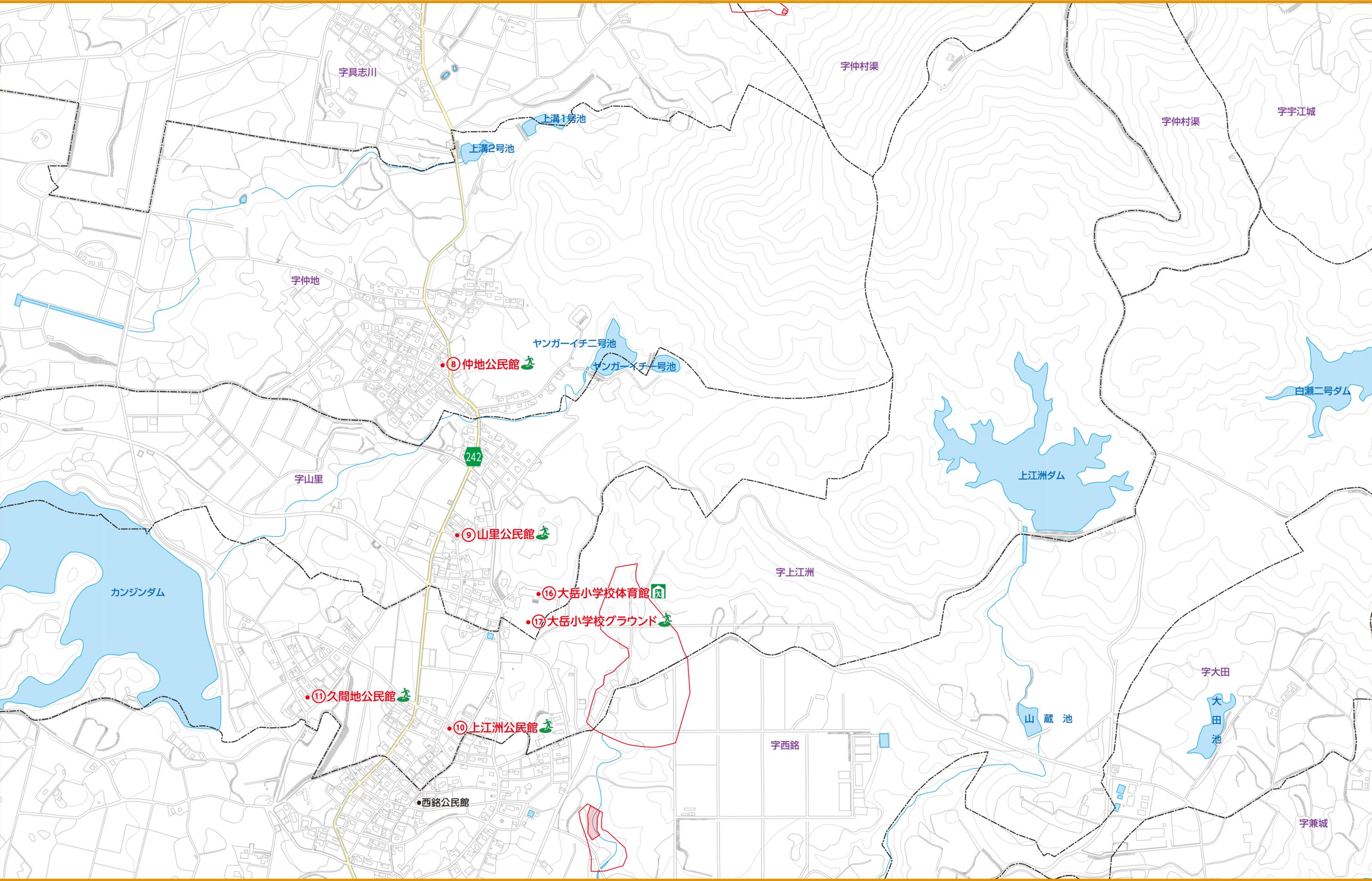


凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

高潮浸水想定区域 	急傾斜地 	土石流 	砂防三法指定区域 	浸水想定区分 10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満
--------------	--------------	-------------	------------------	--

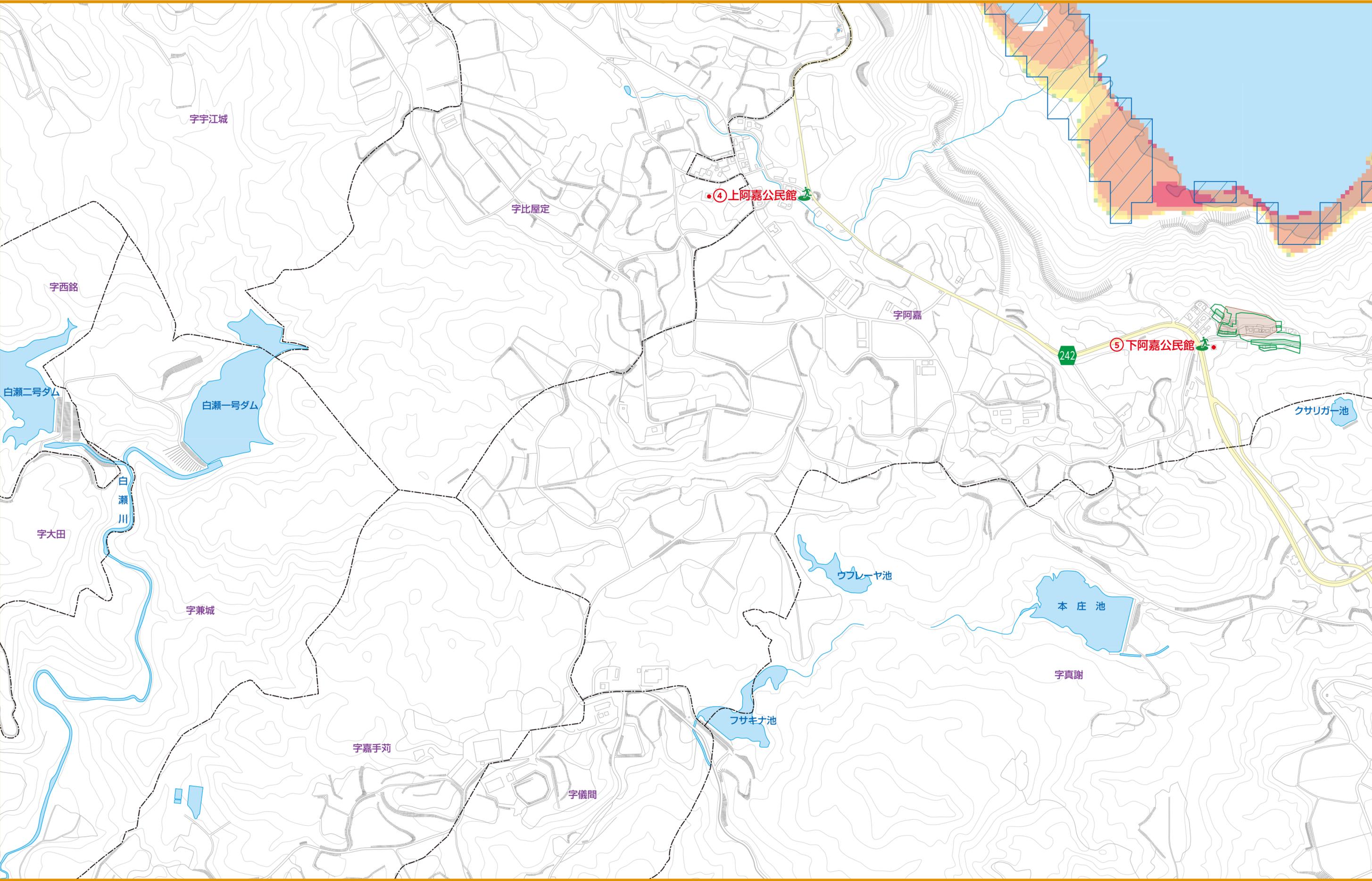
縮尺1:6,500

0 125 250m



凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

高潮浸水想定区域 	土砂災害の危険がある場所 	急傾斜地 	土石流 	砂防三法指定区域 	浸水想定区分 10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満
--------------	------------------	--------------	-------------	------------------	--



凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

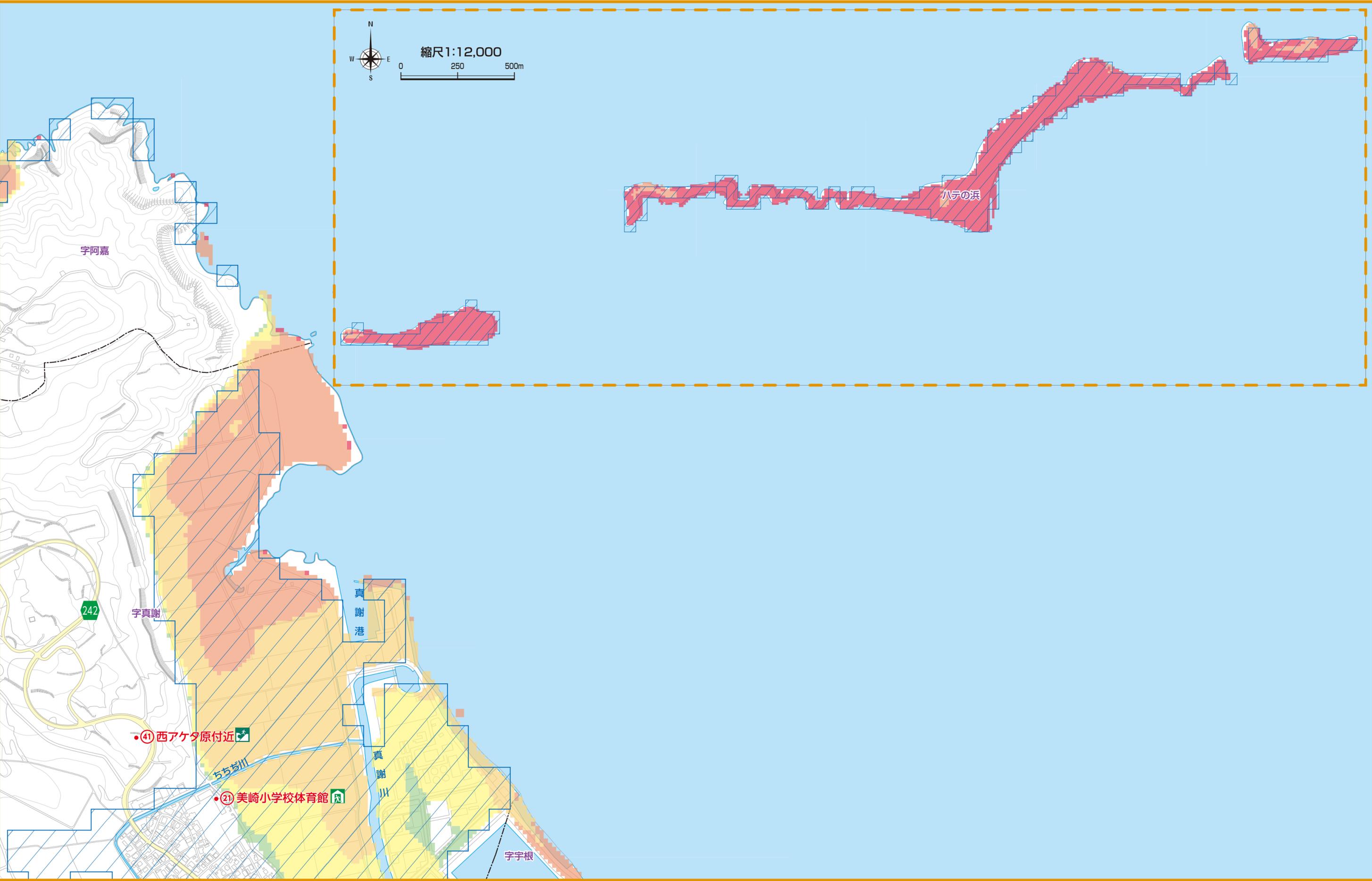
高潮浸水想定区域

土砂災害の危険がある場所	急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域	砂防三法指定区域 急傾斜地崩壊危険区域
	急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域	砂防三法指定区域 砂防指定区域

津波災害 警戒区域	10m以上～20m未満
	5m以上～10m未満
	2m以上～5m未満
	1m以上～2m未満
	0.3m以上～1m未満
	0.3m未満

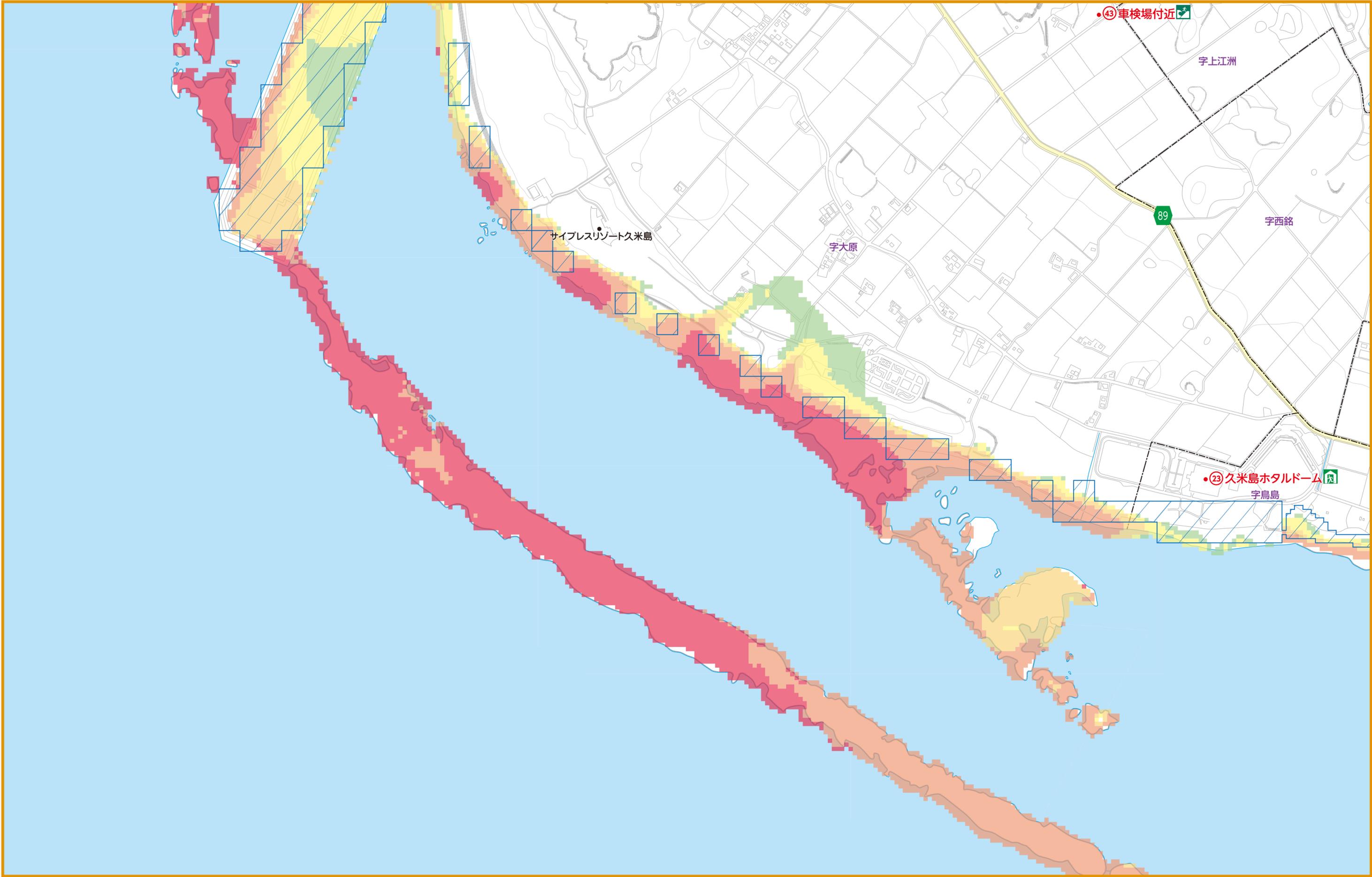
縮尺1:6,500

縮尺1:12,000



凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

高潮浸水想定区域 	急傾斜地 	土石流 	砂防三法指定区域 	浸水想定区分 10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満
--------------	--------------	-------------	------------------	--

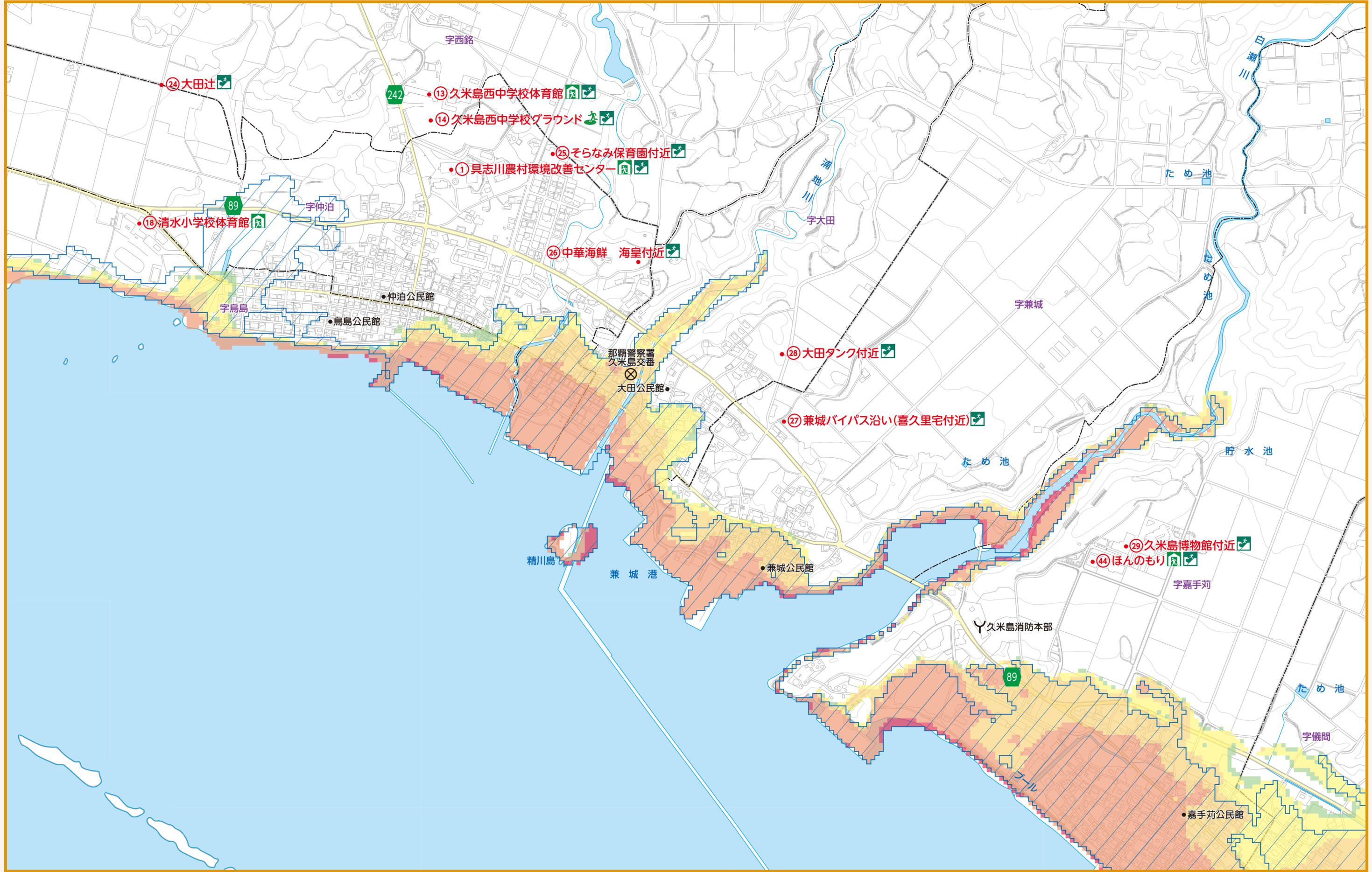


凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
		消防本部	

高潮浸水想定区域	急傾斜地 土砂災害の危険がある場所	土石流	砂防三法指定区域	浸水想定区分
	特別警戒区域 警戒区域	特別警戒区域 警戒区域	急傾斜地崩壊危険区域 砂防指定区域	10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満

縮尺1:6,500

0 125 250m



凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

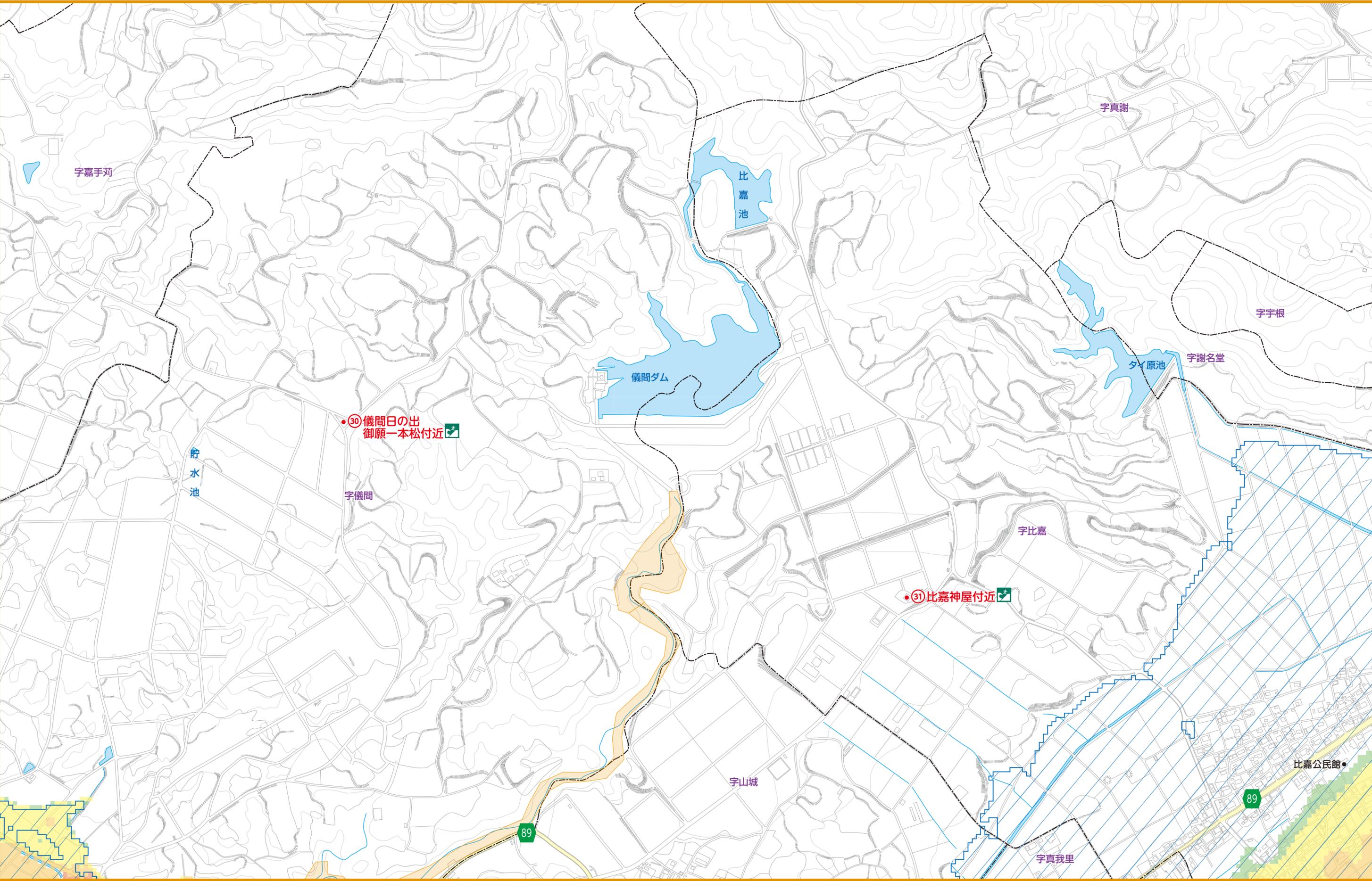
高潮浸水想定区域

土砂災害の危険がある場所	急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域	砂防三法指定区域 急傾斜地崩壊危険区域
	急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域	砂防三法指定区域 砂防指定区域

津波災害警戒区域	10m以上～20m未満
	5m以上～10m未満
	2m以上～5m未満
	1m以上～2m未満
	0.3m以上～1m未満
0.3m未満	

縮尺 1:6,500

0 125 250m



凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
		消防本部	

高潮浸水想定区域

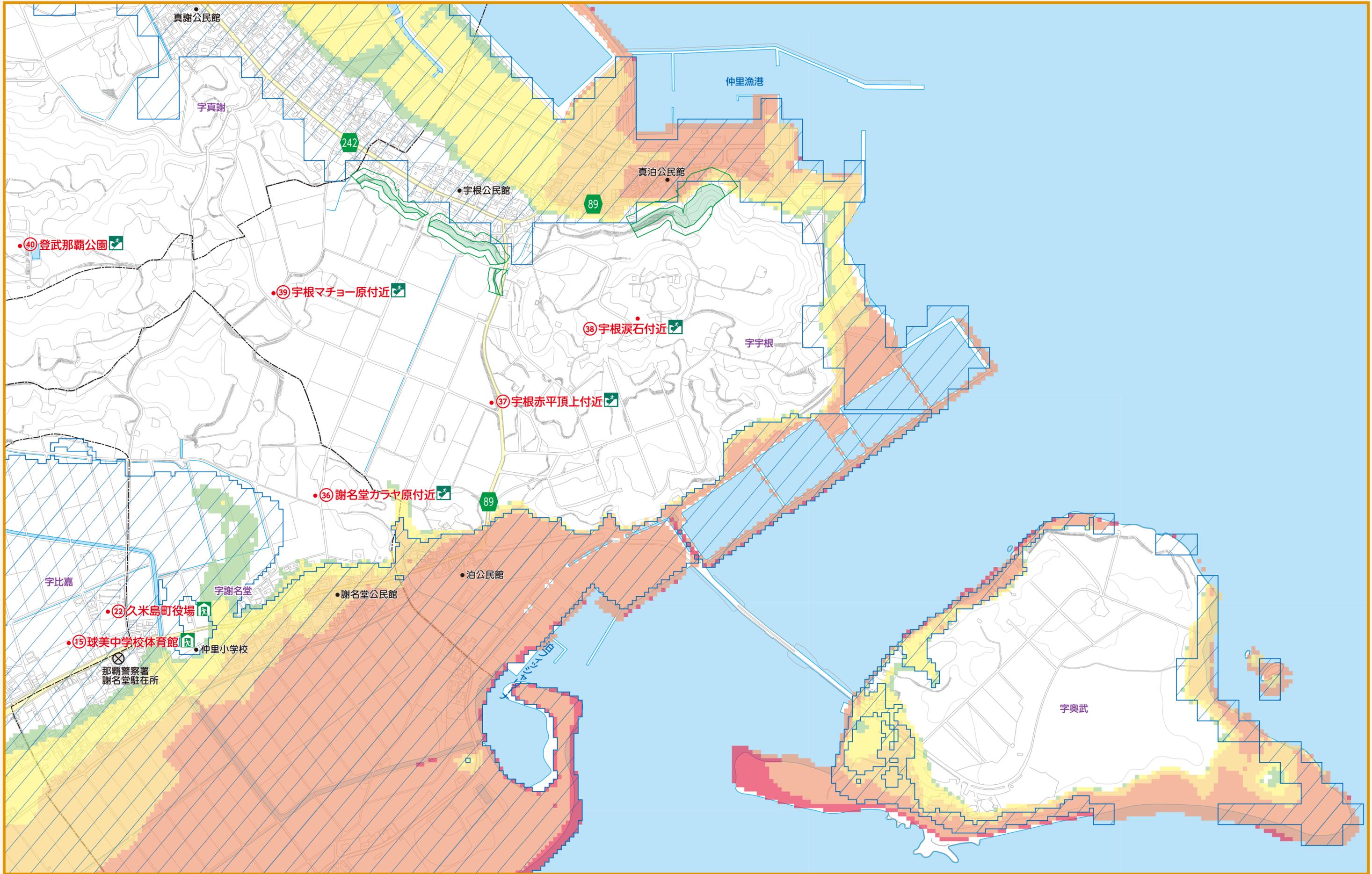
土砂災害の危険がある場所	急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域	砂防三法指定区域 急傾斜地崩壊危険区域
	急傾斜地 警戒区域	土石流 警戒区域	砂防三法指定区域 砂防指定区域

津波災害 警戒区域	10m以上～20m未満
	5m以上～10m未満
	2m以上～5m未満
	1m以上～2m未満
	0.3m以上～1m未満
	0.3m未満



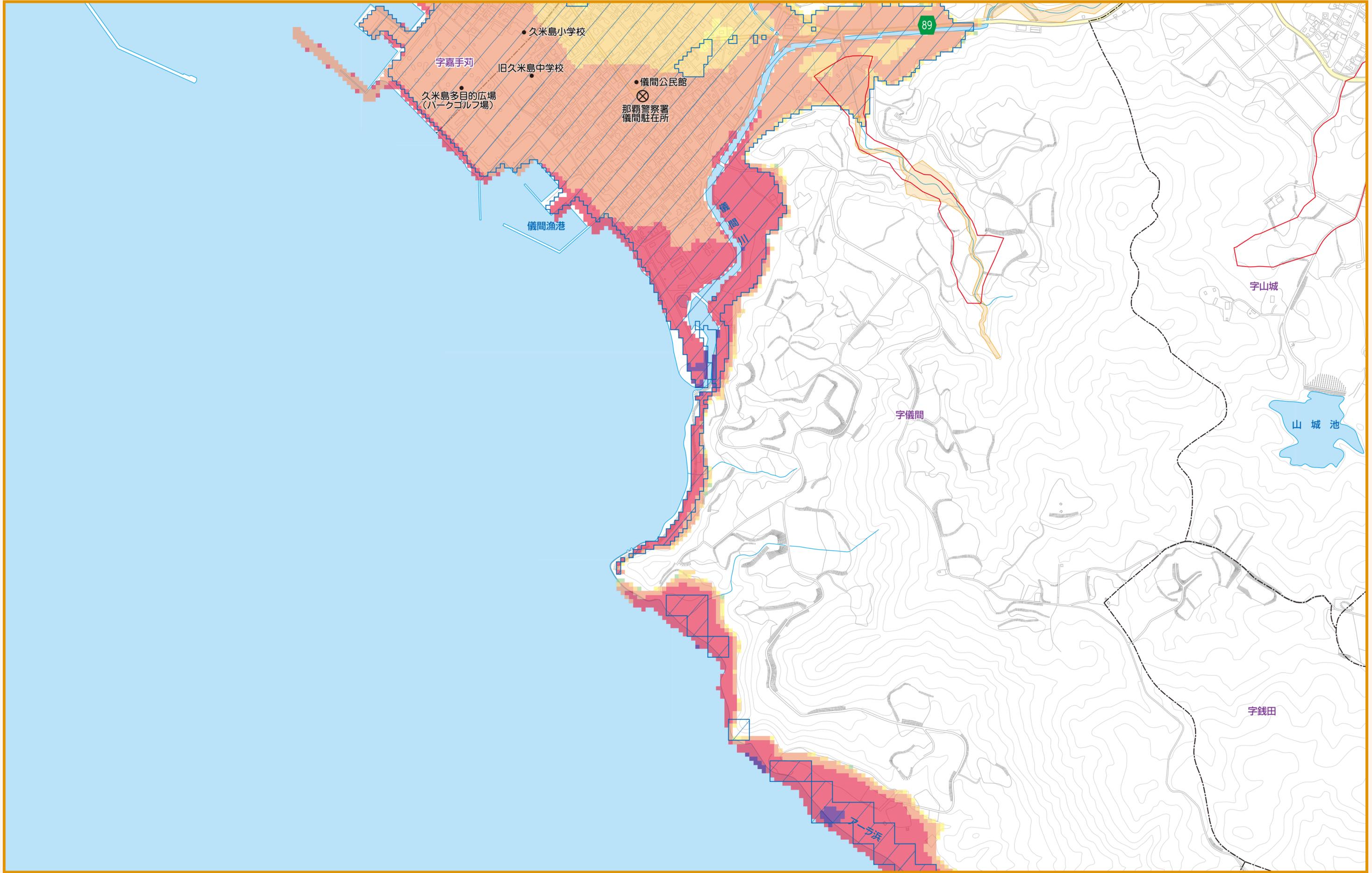
縮尺1:6,500

0 125 250m



凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

高潮浸水想定区域 	急傾斜地 	土石流 	砂防三法指定区域 	浸水想定区分 10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満
--------------	--------------	-------------	------------------	--

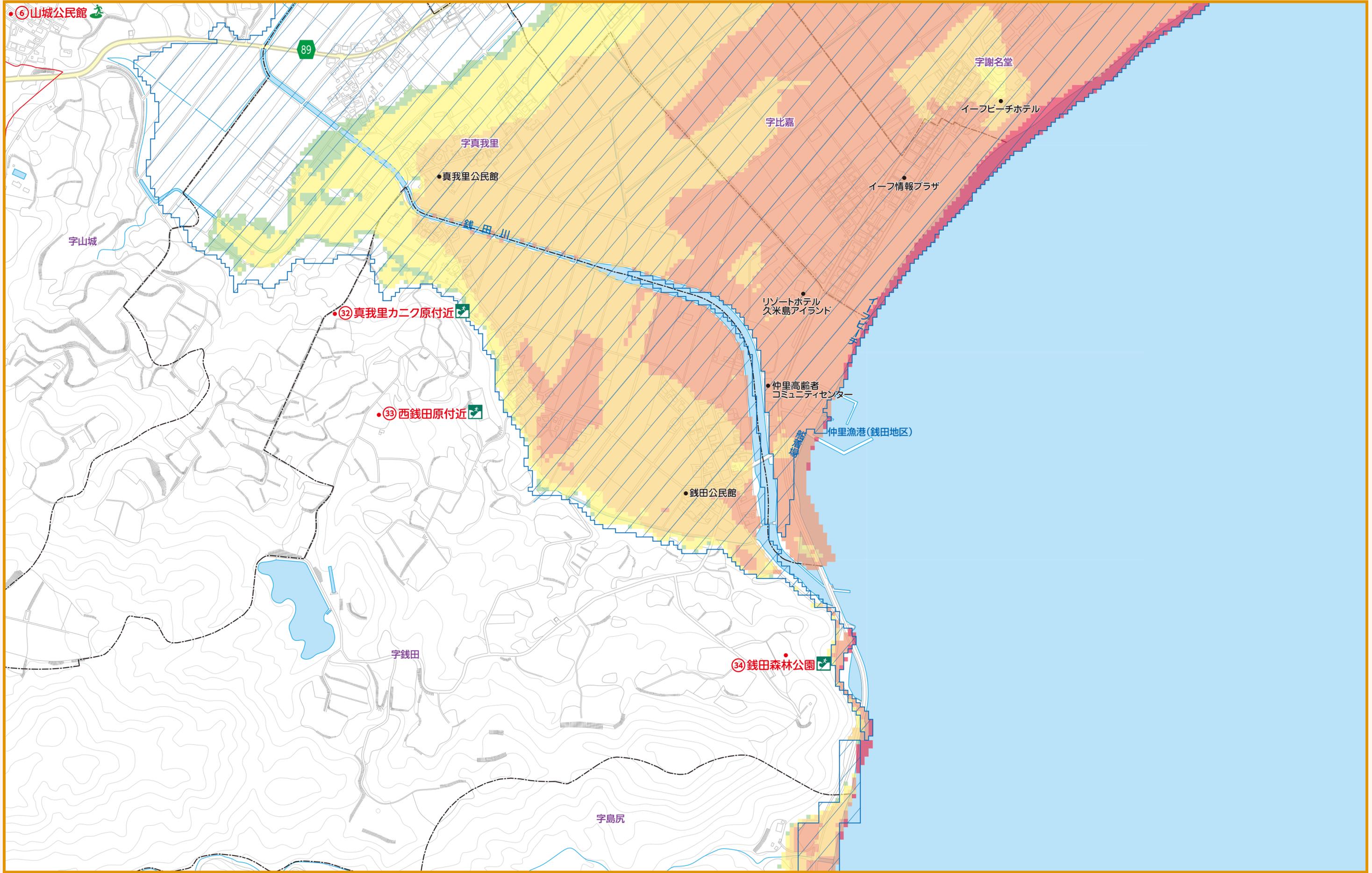


凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

高潮浸水想定区域 	急傾斜地 	土石流 	砂防三法指定区域 	浸水想定区分 10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満
--------------	--------------	-------------	------------------	--

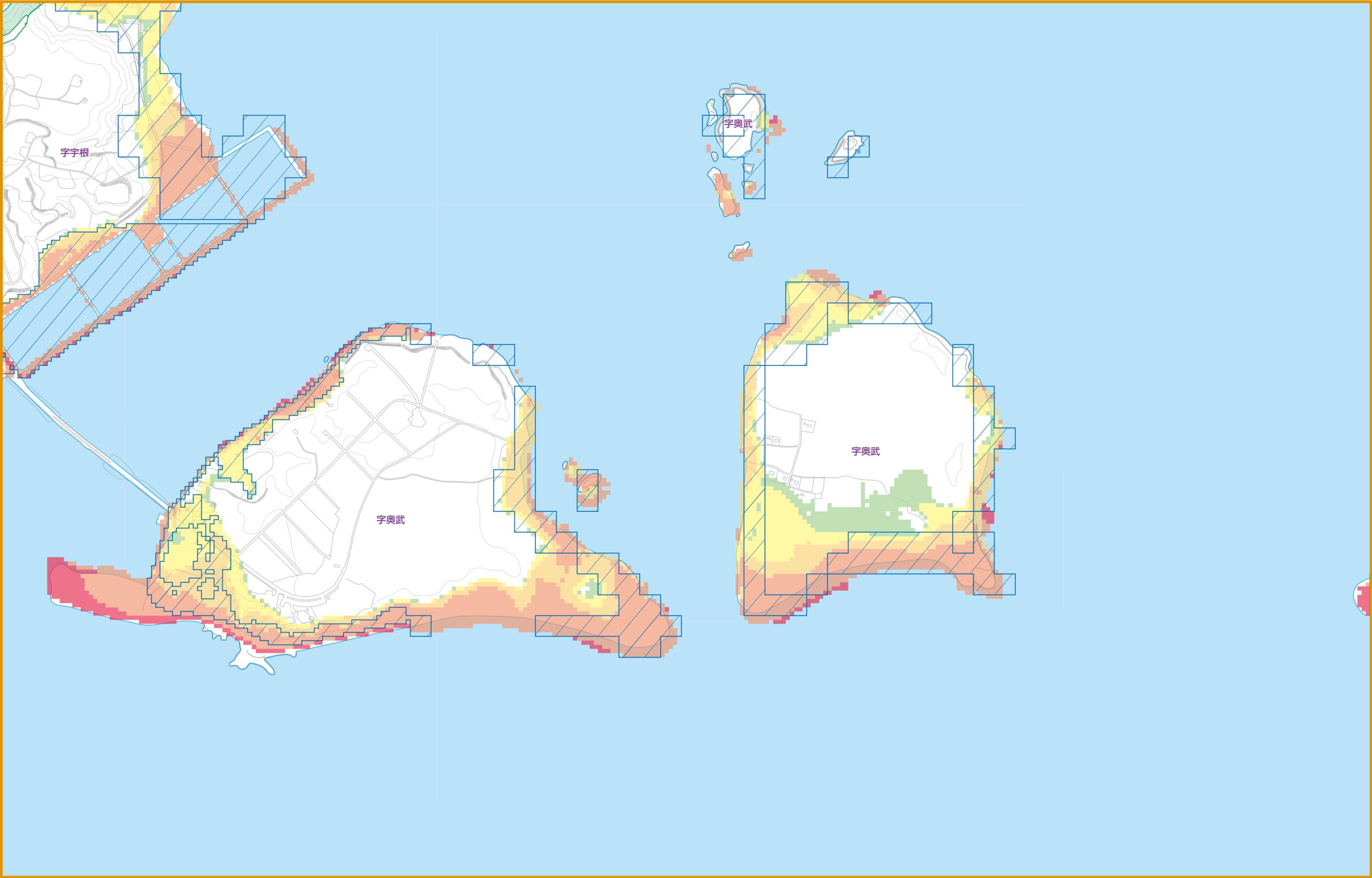
縮尺 1:6,500

0 125 250m



凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

高潮浸水想定区域		急傾斜地 特別警戒区域	土石流 特別警戒区域	砂防三法指定区域 急傾斜地崩壊危険区域	浸水想定区分 10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満
土砂災害の危険がある場所		警戒区域	警戒区域	砂防指定区域	津波災害警戒区域

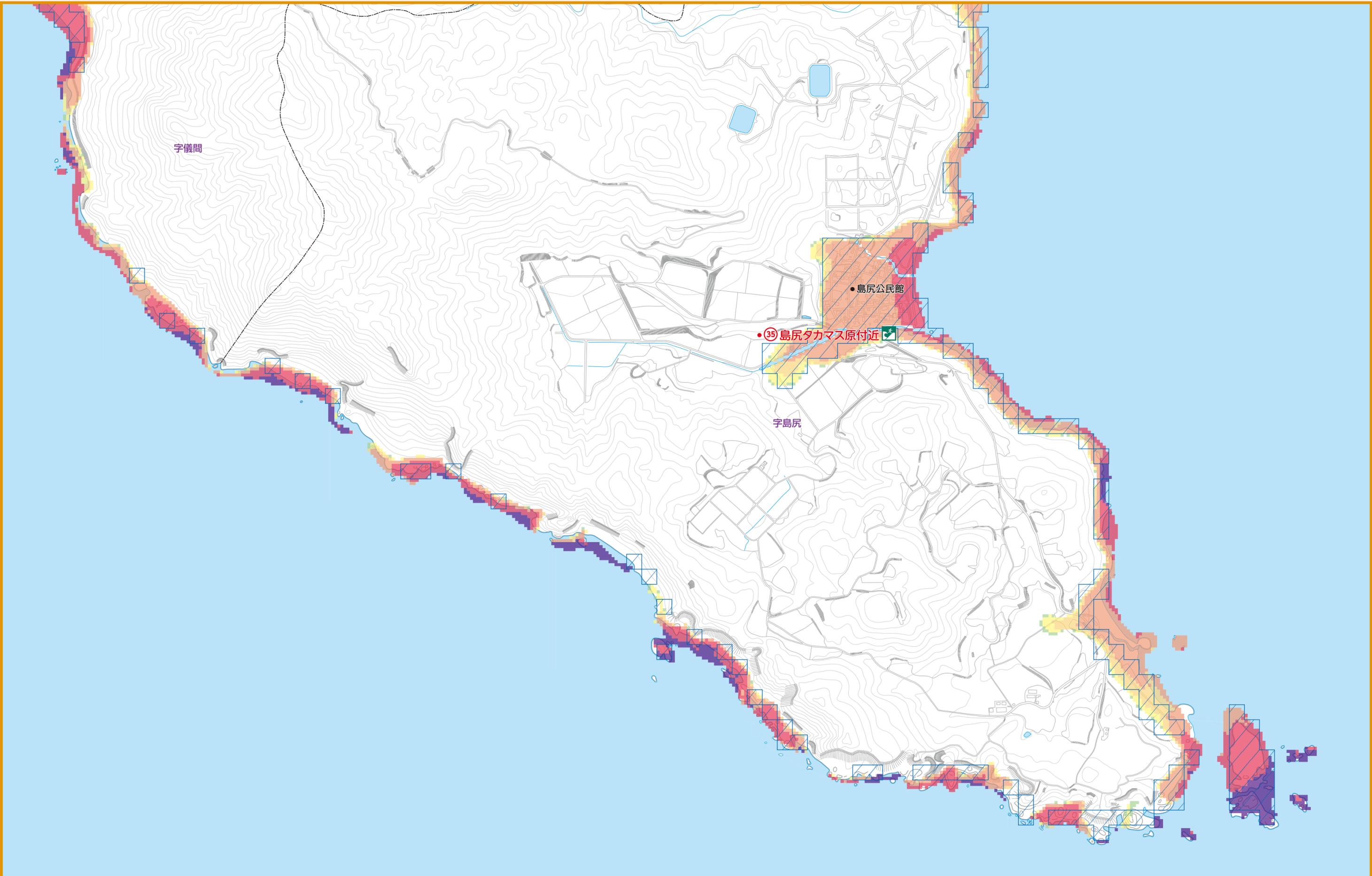


凡例	指定緊急避難場所	津波避難場所	町役場
	指定避難所	県道・主要地方道	交番・駐在所
			消防本部

高潮浸水想定区域 	土砂災害の危険がある場所 	急傾斜地 特別警戒区域 警戒区域 	土石流 特別警戒区域 警戒区域 	砂防三法指定区域 急傾斜地崩壊危険区域 砂防指定区域 	浸水想定区分 10m以上～20m未満 5m以上～10m未満 2m以上～5m未満 1m以上～2m未満 0.3m以上～1m未満 0.3m未満
--------------	------------------	--------------------------------	-------------------------------	--	--

縮尺 1:9,000

0 200 400m



防災対策 & チェック

事前に準備出来ているか、チェック しましょう。

家の中の安全対策

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

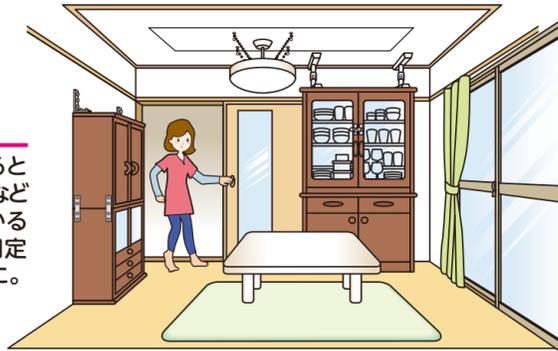


安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

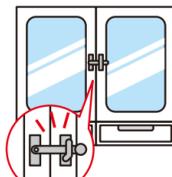
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



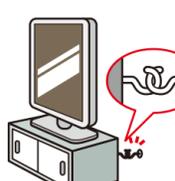
冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



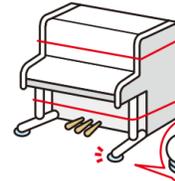
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

ブロック塀・門柱

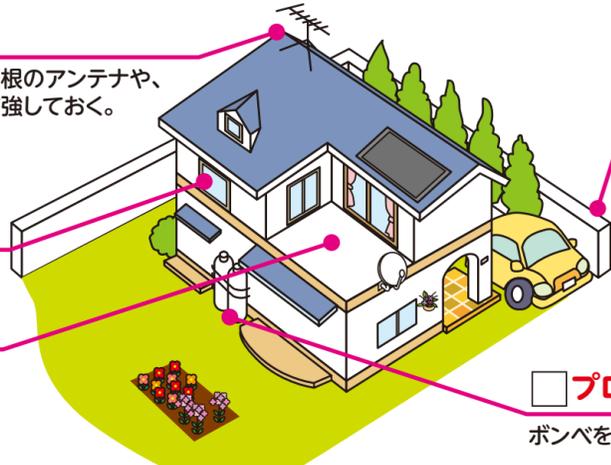
土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

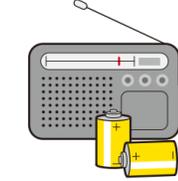
非常時持ち出し品の準備 & チェック

いざというときにすぐ持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

事前に準備出来ているか、チェック しましょう。

非常時持ち出し品(例)

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



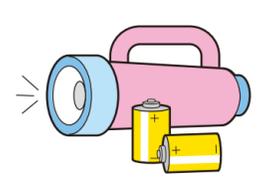
- 常備薬
- 鎮痛剤
- 傷薬
- 包帯

貴重品



- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証

懐中電灯



- 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品等

火を通さなくて食べられるもの、食器など



- 非常用食品
- 紙皿
- ミネラルウォーター
- 缶切り
- 缶詰
- 紙コップ

その他

- 衣類(下着・上着など)
- 生理用品
- 離乳食
- ウェットティッシュ
- ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- 防災マップ(本書)
- タオル
- 乳幼児製品
- カップ
- ライター
- 携帯電話の充電器
- スリッパ

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど

非常食品



- お米(レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべやかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

定期点検!

非常時持ち出し品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持ち出し用品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具(マジックなど)スコップなど。



大規模災害で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、ボールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持ち出し品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

防災に関する知識

緊急時の連絡先

消防・救急は **119番** 警察は **110番**

名称	電話番号
久米島町役場	098-985-7121
久米島町消防本部	098-985-3281
那覇警察署久米島交番	098-985-2212

日常の心得 災害は、いつ発生するかわかりません。日頃からの備えが大切です。日頃から気象情報について、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどを通じて把握するよう努めましょう。

連絡方法の確認

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

社団法人電気通信事業者協会 <<災害時の電話の利用方法>>	https://www.tca.or.jp/information/disaster.html
NTT西日本 <<災害用伝言ダイヤル171>>	https://www.ntt-west.co.jp/dengon/
NTTドコモ <<災害用伝言板サービス>>	https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/index.html
au <<災害用伝言板サービス>>	https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/
SoftBank <<災害用伝言板サービス>>	https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/

緊急速報メール

「緊急速報メール」により、緊急情報を配信します。

町では、災害時の高齢者等避難などの緊急情報をより多くの人にお伝えするため、緊急時に町内にいる人の携帯電話へ「緊急速報メール」の配信を行います。

○「緊急速報メール」とは、高齢者等避難などの緊急情報を町内にいる人の携帯電話（NTTドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイル等）へ一斉にメールを配信するものです。

※機種により「緊急速報メール」を受信できない場合や受信設定が必要となる場合がありますので、詳しくは、各携帯電話会社へお問い合わせください。

○配信する情報は、高齢者等避難や避難指示（緊急）など、緊急かつ重要な情報です。

○携帯電話を利用する人の費用負担や事前のメールアドレス登録は必要ありません。



久米島町WEB版防災ハザードマップ

久米島町WEB版防災ハザードマップでは、パソコン・スマートフォン上で久米島町内の災害に関する危険想定箇所や、避難施設の詳細情報をご覧いただけます。下記URL、または右記のQRコードよりアクセスしてご利用ください。

URL <https://www.town.kumejima.okinawa.jp/docs/2017050900103/>

QRコード



※QRコードは（株）デンソーウェブの登録商標です。

感染症対策について

災害が発生した場合の避難所では、密閉した空間の中での集団生活等により新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザや風邪等の感染症のリスクが高まる恐れがあります。

少しでも感染リスクを軽減するために次のことについて、地震や風水害発生時の避難に備えて平時から準備をお願いします。

避難者の健康状態の確認

避難者の健康状態を確認するため、避難所に入られる際は、ご自宅での体温測定にご協力願います。なお、発熱、咳などの症状がある方は、かかりつけ医に相談し、可能であれば旅館やホテル等での避難も検討してください。

親戚や知人の家、ホテル、旅館などへの避難の検討

避難時に、避難所が過密状態になることを防ぐために、可能な場合は親戚や知人の家、ホテル、旅館などへ避難することを検討しておいてください。

手洗い、咳エチケット等の基本的な対策の徹底

避難者は頻りに手洗いをするとともに、咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底しましょう。他の人と 2m 以上離れ、会話も必要最小限にしましょう。



マスクを着用する
(口・鼻を覆う)

マスクがない時



ティッシュ・ハンカチで
口・鼻を覆う

とっさの時



袖で口・鼻を覆う

避難所の衛生環境の確保

避難者が共有する物品やスペースは定期的に、消毒液や家庭用洗剤を用いて清掃するなど、避難所の衛生環境をできる限り整えましょう。

なお、避難所の備蓄品には限りがあります。水や食料品などに加え、自身の健康状態を確認するために体温計を持参するなど、可能な限り必要なものは持参してください。



防災メモ

家族の連絡先

氏名	生年月日	血液型	電話(会社・学校)	住所	メモ

親戚・知人の連絡先

氏名	電話	住所	メモ(家族との関係など)

避難所

避難所	
家族の集合場所	

災害時の連絡方法を覚えておきましょう

電話が混み合う災害時に、家族や支援者との安否確認に役立つのが、NTTの「災害用伝言ダイヤル」や携帯電話各社の「災害用伝言板」です。震度6以上の地震などの大規模災害時に稼働します。

災害用伝言ダイヤル「171」の使い方 ※音声案内が流れるので、それに従って落ち着いて利用しましょう。

伝言の録音方法 171 ▶ 1 ▶ 被災地の人の電話番号(市外局番から) ▶ 伝言を吹き込む

伝言の再生方法 171 ▶ 2 ▶ 被災地の人の電話番号(市外局番から) ▶ 伝言を聞く

「災害用伝言ダイヤル171」サービスを体験できます。(毎月1日、他^{ついたち})

- 詳しくはNTT及び携帯電話会社にお問い合わせ下さい。
- 実際に災害が発生した際には体験サービスの利用ができない場合があります。